

IR

第54期第2四半期
営業のご報告

2017年4月1日～9月30日





株式会社 あじかん
代表取締役社長 足利 恵一

株主のみなさまへ

増収増益の決算をご報告申し上げます

株主のみなさまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。当社グループの第54期第2四半期連結累計期間(2017年4月1日から2017年9月30日まで)の営業の概況および決算等についてご報告申し上げます。

ご高承のとおり、当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益および雇用・所得環境に緩やかな回復基調が継続して見られたものの、米国の金融政策の影響や、北朝鮮を始めとした地政学的リスクなどにより、金融資本市場が不安定な動きとなるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、食品の安全・安心への関心が高まる中で、輸入品や原材料価格は安定して推移したものの、個人消費は緩やかな回復に留まっており、一定の厳しさを残した経営環境で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは『経営基盤の拡大』と『新事業の成長』をテーマとした第10次中期経営計画の最終年度をスタートさせ、「営業基盤の拡充と市場開拓」、「商品の研究開発と技術開発、およびマーケティング力の強化」、「利益構造の改革」、「全社供給体制の強化と効率化」、「経営効率・経営品質の向上」を重点施策とした取り組みを展開してまいりました。

当第2四半期連結累計期間におきましては、業務用食品において、各種イベントに合わせた販促活動や主要都市での展示会開催などに加え、新製品およびリニューアル品を軸とした新規開拓・深耕拡大への取り組みを実施いたしました。その結果、厚焼玉子を中心とした玉子製品に加え、自社企画ブランド品の売上が拡大いたしました。

ヘルスフード事業におきましてはテレビCMや紙媒体、電子媒体などでの販促・広告活動を積極に行った結果、通信販売を中心とした定期顧客数が大幅に増加いたしました。また、ドラッグストアなどを中心とした市販品の売上も、新規開拓やインスタプロモーションの強化により、前年同四半期実績を大幅に上回る結果となりました。

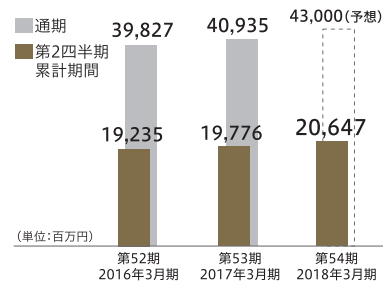
生産面におきましては、自社工場製造製品の売上拡大に伴い高い生産稼働率を維持できたことや、省エネ活動、生産技術の向上による歩留まりの改善などにより製造原価の低減は図れたものの、ユーティリティーコストの上昇や増産を目的とした工場の設備投資に伴う減価償却費負担などにより製造原価率は前年同四半期並みとなりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、20,647百万円(前年同四半期比4.4%増加)と前年同四半期実績を大幅に上回ることができました。営業利益は、504百万円(前年同四半期比34.1%減少)となったものの、円安進行に伴うデリバティブの時価評価益の計上などにより、経常利益 559百万円(前年同四半期比5.2%増加)、親会社株主に帰属する四半期純利益 347百万円(前年同四半期比23.4%増加)となりました。

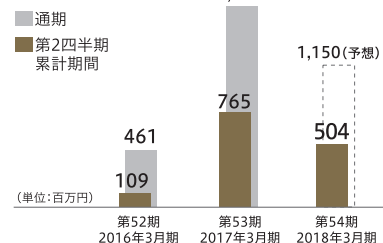
■ 通期業績予想

通期の業績につきましては、2017年11月に竣工予定の新工場稼働に伴う先行的な費用負担や、業績に大きな影響を与える冬場の原材料価格の動向、為替、株価、原油価格など、先行き不透明で流動的な要素も多くありますが、当第2四半期連結累計期間までの状況を勘案し、売上高 43,000百万円、営業利益 1,150百万円、経常利益 1,200百万円、親会社に帰属する当期純利益 650百万円に当初予想を変更いたしました。

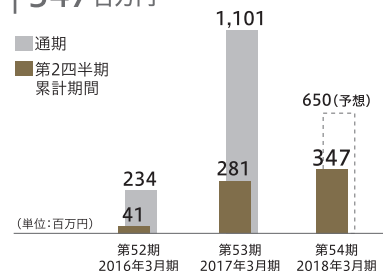
売上高 20,647百万円



営業利益 504百万円



親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益 347百万円



注) 金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■第2四半期 連結貸借対照表

科 目	前連結 会計年度	当第2四半期 連結会計期間
	2017年3月31日現在	2017年9月30日現在
(資産の部)		
流動資産	10,009	※1 11,154
現金及び預金	1,627	916
受取手形及び売掛金	4,902	6,489
商品及び製品	2,129	2,051
仕掛品	6	9
原材料及び貯蔵品	940	1,195
繰延税金資産	128	165
その他	285	350
貸倒引当金	△ 11	△ 23
固定資産	9,967	※2 11,219
有形固定資産	8,086	9,210
建物及び構築物(純額)	1,883	1,871
機械装置及び運搬具(純額)	1,471	1,717
土地	3,371	3,362
リース資産(純額)	64	71
その他(純額)	1,296	2,187
無形固定資産	97	81
ソフトウエア	42	34
リース資産	24	17
その他	30	29
投資その他の資産	1,783	1,928
投資有価証券	934	1,071
その他	887	905
貸倒引当金	△ 38	△ 48
資産合計	19,976	22,374

※1 流動資産は、前連結会計年度末に比べ1,145百万円増加し、11,154百万円となりました。
主な増減要因は、受取手形及び売掛金の増加1,587百万円、原材料及び貯蔵品の増加254百万円、現金及び預金の減少711百万円であります。なお、受取手形及び売掛金の増加は、当第2四半期連結会計期間末が金融機関の休業日であったことから、債権の回収が翌連結会計期間にずれ込んだためであります。

※2 固定資産は、前連結会計年度末に比べ1,252百万円増加し、11,219百万円となりました。
これは、減価償却の進行に伴う減少要因はありましたが、有形固定資産において、増産を目的とした工場の設備投資により、機械装置及び運搬具(純額)が増加したことに加え、新工場建設などにより、その他(純額)に含まれる建設仮勘定が大幅に増加したためであります。

※4 固定負債は、前連結会計年度末に比べ596百万円増加し、1,544百万円となりました。
主な増加要因は、政策的な借入による長期借入金の増加589百万円、繰延税金負債の増加67百万円であります。

科 目	前連結 会計年度	当第2四半期 連結会計期間
	2017年3月31日現在	2017年9月30日現在
(負債の部)		
流動負債	7,950	※3 9,476
支払手形及び買掛金	2,791	3,439
短期借入金	2,489	3,662
リース債務	50	47
未払法人税等	478	255
賞与引当金	284	398
役員賞与引当金	35	23
その他	1,821	1,649
固定負債	948	※4 1,544
長期借入金	442	1,031
長期未払金	－	215
リース債務	63	65
役員退職慰労引当金	253	-
退職給付に係る負債	113	89
資産除去債務	52	53
繰延税金負債	21	89
その他	1	1
負債合計	8,899	11,020
(純資産の部)		
株主資本	10,588	10,798
資本金	1,102	1,102
資本剰余金	1,098	1,098
利益剰余金	8,451	8,661
自己株式	△ 64	△ 64
その他の包括利益累計額	489	555
その他有価証券評価差額金	298	390
繰延ヘッジ損益	10	－
為替換算調整勘定	222	192
退職給付に係る調整累計額	△ 41	△ 27
純資産合計	11,077	11,353
負債純資産合計	19,976	22,374

※3 流動負債は、前連結会計年度末に比べ1,525百万円増加し、9,476百万円となりました。
主な増減要因は、短期借入金の増加1,173百万円、支払手形及び買掛金の増加647百万円、賞与引当金の増加114百万円、未払法人税等の減少223百万円、その他に含まれる未払消費税等の減少95百万円であります。

■第2四半期 連結損益計算書

科 目	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間
	2016年4月1日～ 2016年9月30日	2017年4月1日～ 2017年9月30日
売上高	19,776	※5 20,647
売上原価	14,511	15,121
売上総利益	5,265	5,525
販売費及び一般管理費	4,499	5,021
営業利益	765	※6 504
営業外収益	51	82
営業外費用	285	28
経常利益	531	559
特別利益	－	1
特別損失	141	9
税金等調整前四半期純利益	390	551
法人税等	108	204
四半期純利益	281	347
親会社株主に帰属する四半期純利益	281	347

■第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間
	2016年4月1日～ 2016年9月30日	2017年4月1日～ 2017年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,251	※7 △799
投資活動によるキャッシュ・フロー	△383	※8 △1,489
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8	※9 1,582
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	810	△711
現金及び現金同等物の期首残高	1,446	1,617
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,257	906

※9 財務活動の結果得られた資金は、1,582百万円となりました。これは長期借入金による収入1,000百万円、短期借入金の純増加額900百万円、長期借入金の返済による支出137百万円、配当金の支払額136百万円が主な内容となっております。

※5 基盤事業において、各種イベントに合わせた販売促進活動や、主要都市での展示会開催、新規エリアでの拡販体制の強化を実施し、厚焼玉子を中心とした玉子製品に加え、自社企画ブランド品の売上が拡大いたしました。新規事業であるヘルスフード事業は販促・広告活動を積極的に行った結果、通信販売を中心とした定期顧客数が大幅に増加いたしました。また、市販品の売上也新規開拓やインストアプロモーションの強化により、大幅に増加しました。これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は20,647百万円(前年同四半期比4.4%増加)となりました。

※6 生産面において、自社工場製造品の売上拡大に伴い高い生産稼働率を維持できたことや、省エネ活動、生産技術の向上による歩留まりの改善などにより製造原価の低減は図れたものの、ユーティリティーコストの上昇やごぼう茶関連製品のプロモーション強化に関わる諸経費の増加などにより、営業利益は504百万円(前年同四半期比34.1%減少)となりました。

※7 営業活動の結果使用した資金は、799百万円(前年同四半期は1,251百万円の獲得)となりました。これは、税金等調整前四半期純利益551百万円、減価償却費327百万円がありましたが、売上債権・たな卸資産・仕入債務を合計した運転資本面での資金使用1,136百万円、法人税等の支払額412百万円が主な要因です。

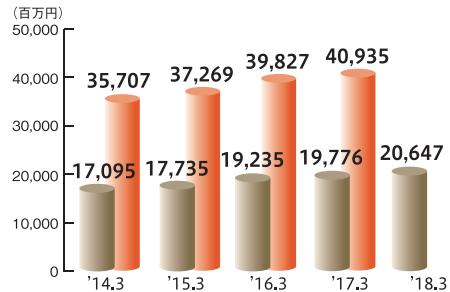
※8 投資活動の結果使用した資金は、1,489百万円となりました。これは、新工場建設に関わる投資、生産設備の増強投資・メンテナンス投資が主な要因となっております。

注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

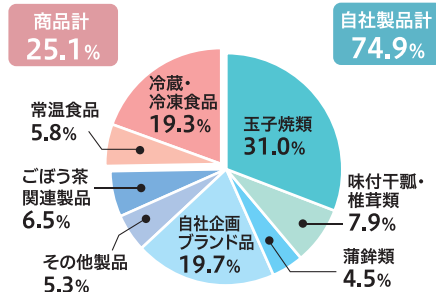
連結業績の推移

売上高

■ 第2四半期累計期間
■ 通期

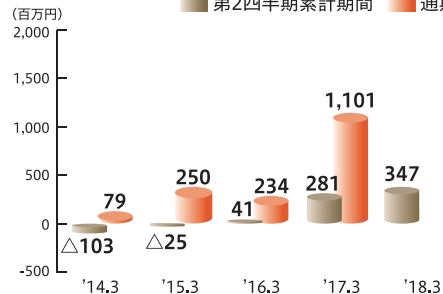


売上構成比（'18年3月期 第2四半期累計期間）



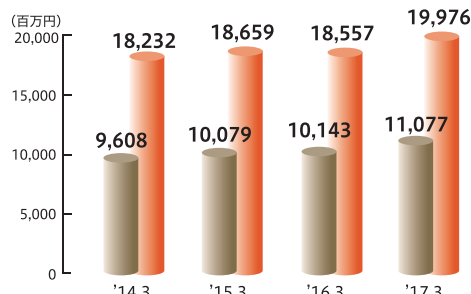
親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益（損失△）

■ 第2四半期累計期間 ■ 通期



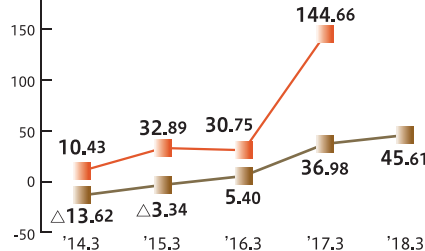
総資産・純資産

■ 純資産 ■ 総資産



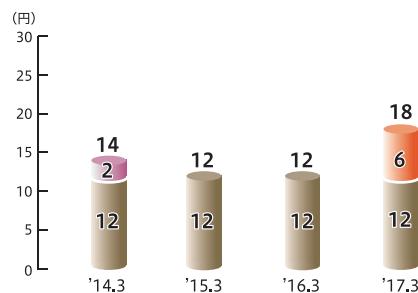
1株当たり当期（四半期）純利益（損失△）

■ 第2四半期累計期間
■ 通期



1株当たり配当金

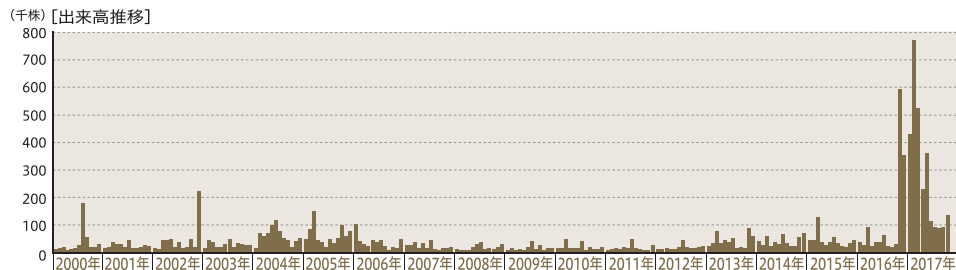
■ 普通 ■ 特別 ■ 記念



注) 金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

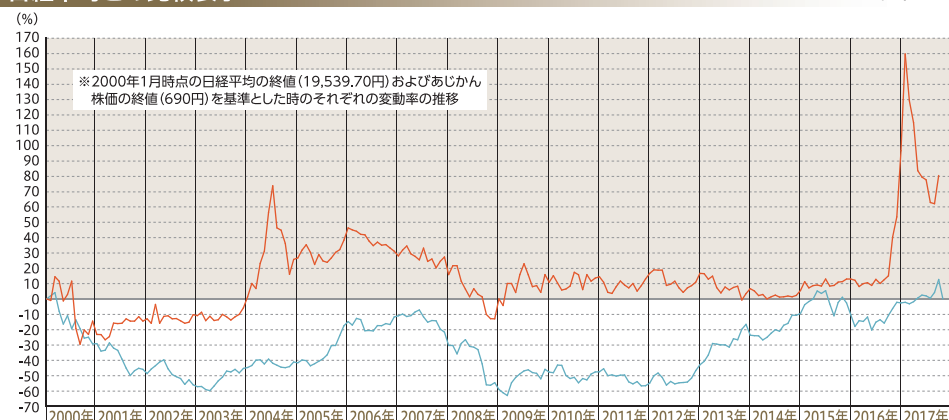
株価・出来高の推移

証券コード：2907



日経平均との比較表示

— あじかん — 日経平均



IR Information

株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 (定時株主総会) 3月31日
(期末配当) 3月31日
(中間配当) 9月30日(当期中間配当は未実施)
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
- 同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777(通話料無料)
- 上場証券取引所 東証2部
- 公告の方法 電子公告
(公告掲載URL) <http://www.ahjikan.co.jp>
※やむを得ない事由により、電子公告ができない場合は、
日本経済新聞に掲載する方法で行います。

【ご注意】

1. 株主さまの住所変更など各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でも、お取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店で、お支払いいたします。

会社概要

- 商 号 株式会社あじかん (AHJIKAN CO.,LTD.)
- 設 立 年 月 日 1965年3月19日(創業1962年)
- 主要な事業内容 鶏卵加工製品・野菜加工製品・水産練製品・その他食品の
製造、販売、および卸売、農産物の生産、販売



- 小誌についてのご意見は『膳』P.18のお便りコーナーまでお寄せください。●